

ヒートアップする北半球 グリーンランド・北極の氷が 溶けている！

うわー！クソ！暑い！！

夏休みが終わって、夏が過ぎたというのにこの暑さはなんだろう。

「異常気象」と片づけてもよいのだろうか。

最近の日本は本当に南の国に近づいている。

そのうちにスコールがくるようになるのではないか。

春夏秋冬、四季があるから日本人の感性がうまれた。

11月になっても半そでシャツでいられる日本。ある意味嬉しく、ある意味で困る。暑いときは暑く、寒いときは寒く。そうでなくては経済がうまく機能しない。10数年前、お盆が過ぎるまでは酷暑だったが、1週間も過ぎれば高原には秋の気配が忍び寄ってきたものだ。

インターネットでぶらぶらしていると、涼しげなタイトルにぶちあたった。

北極の夏の氷は10 年で消える？

John Roach さんの2009年10月15日の記事である。(National Geographic News)

北極海の夏の氷が10年以内にほぼ消滅するかもしれないという研究結果が発表された。これまで北極海の氷については実に様々な予測が出されているが、これはその最新のものである。

2009年春、イギリスにあるケンブリッジ大学の海氷専門家ピーター・ワダムズ氏率いる調査チームがポーフォート海の北側の海域の氷を全長450キロに渡って観測したところ、そのほとんどが新しく薄いものであることがわかった。

「この海域の氷の大部分は、形成されてからまだ1年しか経っていないため、他の海域と比べて明らかに壊れやすい」とワダ



Arctic ice photograph by Paul Nicklen

ムズ氏は述べている。

同調査チームによると、2008年春の北極海の氷冠の厚さは平均1.8メートルで、これはわずか1年ほど前にできた氷であることを示しているという。NASAの観測によると、形成されてから数年を経た壊れにくい氷の厚さが約3メートルあるのと対照的である。

コロラド州ボルダーにあるアメリカ国立雪氷データセンターの北極海水専門家マーク・セリーズ氏はナショナルジオグラフィック ニュースの取材に対して次のように話している。「このように氷が比較的薄いということは、北極海の氷の健康状態が悪いということだ。単純に考えれば、氷が薄いまま春になり氷が溶ける季節が来ると、氷が厚い場合よりも少ない太陽エネルギーで氷が溶けることになる」。

また、薄い氷の方が風や海流で壊れやす

いため、厚い氷の場合よりも広い面積が暖かい海水にさらされる。さらに、氷が自由に浮遊するようになると、風や海流によって北極圏から押し出され、南の暖かい海水へと押しやられる可能性があるという。

英国に拠点を置く北極研究チーム「カトリン北極調査」と国際環境保護団体である世界自然保護基金(WWF)が公表した最新データは、およそ20年以内に夏の北極から氷が消えるという説を支持するものだ。

これに対し、ワダムズ氏は声明の中で、ほとんどの氷は今後10年以内に溶けると予想されると述べている。セリーズ氏は、北極海の夏の氷が完全に溶けるのは2030年頃になると予測している。他に、もっと先の2100年とする研究グループもある。

これほどまでに予測に開きがあるのはなぜか。

「氷が消える時期は地球の気候システムの変動にかなり左右される」とセリーズ

氏は話す。その典型的な例が、氷が記録的に薄くなった2007年である。この年の夏の気象条件は氷にとって最悪だった。気温の上昇と風向きが相まって大きな氷塊が粉々になり、北極圏の外に押し出されたのである。

セリーズ氏によれば、2008年と2009年の夏には北極海の氷はいくらか回復したが、長期的には依然として氷は縮小傾向にあるという。

北極海の氷は、ゆっくりと徐々に減少していくのだろうか。それとも2007年のような年がまた来て、一気に消えてしまうのだろうか。「まだ不明な点がたくさんある。どうなるかはまったくわからない」とセリーズ氏は話している。

ムむ一なるほど、涼しくなるどころかゾクゾクするほど寒い話になってきました。そういえば、わが社の「白クマくん」も額にジェルを貼ってフーとか言いながら、エアコンの冷氣吹き出し口の真下に移動しています。北極海の本物の白クマくんは氷が溶けて、餌のあざらしが氷の上で昼寝ができなくなり、「白クマくん」があざらしの捕獲が難しくなって食糧不足。白クマくんの頭数は減少の一途だそうです。

わが社の「白クマくん」に「ロシアで熱中症で何千人も死んでるそうですね」と話しを振ると、「それどころじゃないですよ、グリーンランドの氷が溶けて緑が出てきて本当のグリーンランドになったそうです」。やはり、北極のことは「白クマくん」に聞くに限る(笑)。

グリーンランドを検索してみる。

グリーンランドのペテアマン氷河の一部が崩壊 マンハッタン島4個分に相当する巨大氷塊

今回の崩壊は史上最大規模の可能性がある。

アメリカ、デラウェア大学の海洋物理学者アンドレアス・ミュンホウ氏によると、分離した“氷の島”は面積が約260平方キロもあり、アメリカ国内で消費される水道水120日分を優に超える量だという。

確かに、マンハッタン島4個分というのは巨大な氷塊だがグリーンが出るところまではいかないのではないかと。しかし、ナイアガラの滝状態でグリーンランドの氷が解けていることは事実。グリーンランドの氷が全部溶けて6メートルの海面上昇、南極大陸の西南極の氷床は陸地に立てかけられた形をしている氷床が解けると、海面はさらに6メートル上昇する、という。

世界中の都市の相当な部分が水没する可能性あり、ただし、そんなに急なことではなさそうだ。

「地球温暖化問題」・「暑い」だけではない。

人口爆発と食料問題

人口の爆発増が、もっとも大きな問題だ。増え続ける世界の人口を支える食糧問

題をどうするのか。現在でも餓死者がいるという事実を知れば、食べ物を粗末にはできない。

紀元前16万年前最初の人類が生まれる西暦元年世界の人口は2億5000万人とされている。

それが1776年には10億人。

第二次世界大戦が終わるころには、23億人。

2000年には65億人。

来る2050年には90億人を超えるだろう、と予測されている。

食糧生産技術の発達。医学の発達。科学・経済・貿易など文化・文明が人口増加を推進してきた。

しかし、問題はこれからだ。



JAXA宇宙航空開発機構HPより

「資源」「エネルギー」をどう開拓し、食糧を増産し90億人の人間を食べさせてゆくののか。

現在、中国人が世界の資源エネルギーを押さえ、工業化、近代化してきたことで、中国人の生活レベルも上昇し、中国人民も贅沢の味を覚えてきた。日本では「贅沢は敵」と言った時代もあるが「贅沢は素敵」でもある。贅沢は麻薬のようなもので、人は二度と貧しいストイックな生活には戻れなくなる。人口1億3000万人の日本がマグロのすしを食べているなら高が知れているが人口13億人~14億人の中国人がマグロのすしを食べだしたら大変だ。奪い合いになることは間違いない。牛丼は、どうだろう。中国も最近は食糧の輸出国から輸入国にシフトしている。中国の次はインドだ。現在インドの人口は11億人。ただし、人口増加率が中国より高いので、近い将来はインドのほうが人口で勝つだろう。

インドも中国も伸び盛りだけに、余り周囲の国を気にしない。有り勝ちなことだが「野郎自大」であり「傍若無人」だ。「無理が通れば道理が引っ込む」の例えである。悪く言えばガサツ。良く言えば、「バイタリティーにあふれ過ぎ」。どちらにしても礼節もなければ遠慮も知らない。こういう輩と一緒にやっていかなければならないのだから日本も辛い立場だ。

ただ、食糧でも精密機械産業でも上質な水が大事だ。ロシアも中国・インドもきれいな水、質の良い水が不足している。これを技術力と知恵で供給できるのは日本だ。水づくり、井戸掘り、浄水、水源涵養、安定供給などトータルで関わり、何かと影響力を持ち続けながらビジネスを広げていけばよい。